

芦総人第155号
令和4年5月9日

芦屋市臨時・嘱託職員共闘委員会
委員長代行 戸田 真有美 様

芦屋市長 伊藤 舞



2022春闘要求書について（回答）

2022年3月17日付け文書で要求のあった標記の件について、次のとおり回答する。

記

1 賃金に関すること

- ① 基本賃金を、正規職員と同等で、1年に4号級上げること。
- ② 職の見直しを行い、同一賃金とすること。
- ③ 早急に、会計年度任用職員事務職（1級職員）とされた10年以上同職種に従事している臨時的任用職員を会計年度任用職員専門職（2級職員）へ移行すること。
- ④ 会計年度任用職員1級職員から2級職員への移行制度を作ること。
- ⑤ 公的部門における処遇改善事業について、今回民間のみを対象としたことに抗議するとともに、対象となる会計年度任用職員の賃金を2月より最低3%引き上げ、処遇を改善すること。公務・民間比較賃金について、芦屋市における比較賃金を明確に示すこと。

回答：会計年度任用職員の給与及び報酬については、地方公務員法で定められた給与、勤務時間その他の勤務条件の根本基準に基づき、近隣の地方公共団体や民間における同種の給与及び報酬の水準を考慮しており、各職種に応じて制度設計を行っている。

なお、会計年度任用職員の職務の級については、賃金等専門検討委員会にて引き続き労使で協議する。

また令和3年度の公的部門における処遇改善事業については、官民比較等により、本市会計年度任用職員への適用は実施しなかったものであり、遡及して適用する考えはない。本市における公務・民間比較賃金については、令

和4年3月25日に示している。

2 雇用の確保に関すること

- ① 本人の意思がある限り、継続雇用を保障すること。
- ② 正規職員の職場確保、及び事務・事業の縮小や廃止、業務委託等を理由に解雇を行うことなく、同等以上の雇用条件で雇用確保をすること。
- ③ 会計年度任用職員の更新手続きを改悪しないこと。
- ④ 今回行われた保育所職員に対する面接試験について、理由と経緯を説明するとともに、今後すべての会計年度任用職員に対して、面接試験による雇用止めを行わないこと。

回答：会計年度任用職員については、1年以内の任期を定めて任用するものであり、継続雇用を保障することはできない。

また今回行われた保育所職員に対する面接試験については、本市における幼稚園・保育所のあり方検討による2園の民営化に伴うものであり、対象となる職員に対しては事前に説明をし、公平を期すため、実施したものである。

- 3 看護休暇を正規職員と同日数、有給で保障すること。
- 4 療養休暇を正規職員と同日数有給で認めること。
- 5 すべての休暇を、正規職員と同様に保障すること。

回答：現行どおりとする。なお、休暇制度については、臨時的任用職員と非常勤嘱託職員で異なる部分があったが、令和2年4月の会計年度任用職員制度への移行に当たっては、原則、これまでの非常勤嘱託職員の休暇制度を適用することとし、改善を図ったところであり、制度移行後も引き続き、改善を図っている。

6 労使関係に関する事

- ① 団体交渉は誠実に行い、雇用不安、労働条件の改善等、実態に真摯に耳を傾け労使合意に至るまで努力すること。
- ② 労働条件に関する一切の諸事項については、すべて労働組合と協議、労使合意のうえ実施すること。
- ③ 事業の運営内容などの変更については、労使合意形成のために、実施予定の1年前までに提案すること。
- ④ 改善と思われる労働条件の変更や福利厚生などについても、会計年度任用職員

に関するすべての情報提供については、組合員に周知できる期間をもって提案し、労使協議を行い合意の上で実施すること。

回答：今後も労働条件に関わる課題については、誠意を持って労使協議を行う。

以 上